

遷喬まちづくり通信

第 21 号
平成30年12月
遷喬地区
まちづくり協議会

にぎわいのある

まちづくり部

サマーフェスティバル遷喬

桶谷 靖志

7月14日土曜日に「サマーフェスティバル遷喬2018」が開催され今年も100人を超える地域の方で大いににぎわいました。

思い起こせばこのフェスティバル開催のきっかけは平成26年に五臓圓ビルで開催した「まち・コンa t五臓圓」でした。まちの持続したにぎわいを生み出すためには若者の定住人口を増やさねばと今はやりの婚活を試みました。平成27年も「まち婚」の切り口で若者対象に事業を行いました。女性の参加者集めに大変苦労しました。そんな苦労から視点をかえて地区の住民が世代関係なくしゃべる場を設ければ、色々な情報交換も

出来て、人と人が結びつくきっかけが出来るかも・・・と平成28年からバーベキュー形式の「サマーフェスティバル遷喬」に生まれ変わり今年で3回目の開催です。

今回も狙い通り老若男女が肉を焼き焼き、ビール片手に話に花が咲きました。占いコーナー、オリジナルアクセサリー作りコーナーも盛況でした。また今回は片原一丁目の松本さんの天体双眼鏡（双眼鏡の長いやつで西日本一らしいです）による星空観測会を芝生の校庭で開催し、土星、木星、金星と観測してその様子は後日地元紙にも掲載されました。

今回も地域のボランティア約30名の方々に会場準備、撤収のサポートをしていただきました。改めまして、皆様に厚くお礼申し上げます。

星を見る会

箕 一郎

昨年好評だった「星を見る会」を本年度は、7月の「サマーフェスティバル遷喬」と9月の「芋煮会」で公民館との共催事業として開催しました。

サマーフェスティバル遷喬2018では、片原一丁目の松本さんにお世話になりました。松本さんご考案のEMS天体双眼鏡で晴天の夏の夜空に輝く星を観測しました。今年の夏は、火星の大接近にあたる年で、「肉眼でも赤く輝く火星」を観測することが出来る絶好の機会でした。

火星は、午後10時ごろ南東の夜空から上がってきました。肉眼でも赤く輝く火星を観測することができ、参加者の皆さんから多くの歓声が湧き上がり、最高の星空観測会となりました。

今年から9月に実施することとなった「芋煮会」では、桶屋町の八木谷さんにお世話になりました。「芋煮会」当日の天気は、曇りで雲の多い夜空で星空観測には適さない予報が出ていました。星空観測を開始するころに

は、晴れ間がみえて秋の夜空を観測することができました。「宵の明星」として夕方からひときわ輝いて見える金星を西の低い位置に観測することができました。同時に、東の夜空に秋の大きな月が上ってきました。天体望遠鏡で観測すると写真で見えたことのない「月のクレター」を観測することができました。参加者の皆さん交代で天体望遠鏡をのぞき感動を味わいました。

また、来年もこの「星を見る会」を開催し、この感動を夜空の星空写真として残せればと思います。

